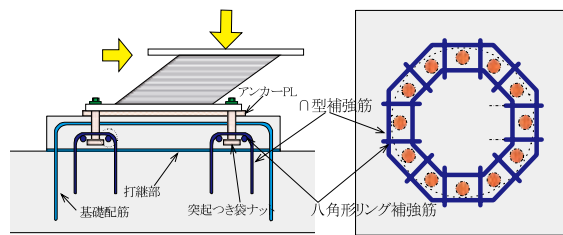


# U型補強筋を配した 免震基礎接合部に関する実験的研究

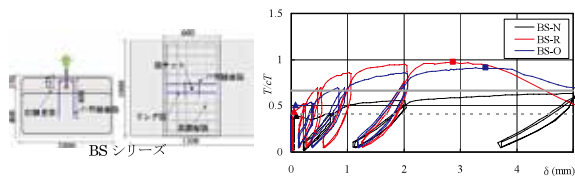
Experimental Study on Connections between Isolators and RC foundations Installed Reinforced U-shape bar

増田 圭司 佐々木 聡 鈴木 泉

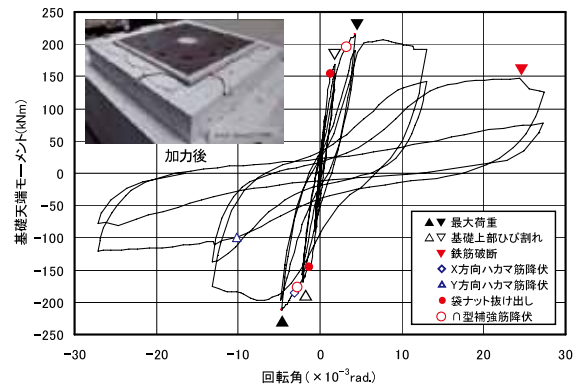
Keiji MASUDA, Satoshi SASAKI, Izumi SUZUKI



提案する工法の概念図



要素実験結果の一例



接合部加力試験結果の一例

## 目的

免震部材とRC造の躯体の接合部は、突起付き袋ナット、頭付きスタッドを有するアンカープレートを用いて行われることが多い。施工的には基礎立ち上がり部が後打ちとなり、打ち継ぎ部が発生する。近年、この打ち継ぎ部を含む免震基礎接合部が、設計時に想定された構造性能を発揮しない場合があることが指摘されている。この種の接合部の構造性能を確認した実験は少ないが、構造的に重要な部位である。ここでは施工性と構造性能の両立した構法を提案し、この接合部について要素及び接合部の加力実験を行い、構造性能を確認した。

## 結論

本報告で示す検討により得られた知見を以下に示す。

要素実験では、(1)突起付き袋ナットのコーン状破壊耐力は計算値で概ね評価できる、(2)袋ナット近傍に補強筋を配した場合、コーン状破壊耐力が若干上昇し、最大引張力時の拔出し変位が大きくなる、(3)打ち継ぎ部に補強筋を配することで、打ち継ぎ部の剥離による曲げ破壊を抑制し、コーン状破壊耐力を確保することができる、という3つの知見が得られた。

接合部の加力試験では、提案したU型補強筋形式の免震基礎接合部の補強筋の効果を検証し、要素実験結果に基づき、接合部のせん断、曲げ、引張耐力を適切に評価できることを確認した。